

第3節 資源循環プロジェクト

概要

これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄の社会は、健全な物質循環を阻害し環境に大きな負荷を与えるとともに、排出されたごみの処理においては種々の環境問題が発生してきました。

本プロジェクトでは、循環型社会の形成のために、「もったいないの心」「ごみにしない取組の推進」「みんなで進める資源化の推進」「環境に配慮した廃棄物処理施設の整備・運営の推進」を柱として重点的に取り組みます。

環境指標の達成状況（先頭に◎がついている指標：プロジェクト代表指標）

指標項目	単位	目指す方向	基準値 2017年	上段：年次目標値／中段：実績値／下段：達成状況				
				2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
◎市民1人当たりのごみ排出量 (集団資源回収、事業系ごみ等は含まない)	g / 人・日	減少	580	578.5	577.8	577.1	576.4	575.6
				583.1	592.7	574.0	557.1	
				X	X	○	○	
焼却処理率	%	減少	77.2	75.0	74.5	74.0	73.5	73.0
				77.6	79.5	79.9	80.1	
				X	X	X	X	
ごみ焼却発電による 電気使用量賄率	%	増加	73.8	89.8	100	100	100	100
				91.9	100	100	100	
				○	○	○	○	

【現状及び課題】

◆「市民1人当たりのごみ排出量」及び「ごみ焼却発電による電気使用量賄率」は達成できたが、「焼却処理率」は未達成

「市民1人当たりのごみ排出量」については、2020年度に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための外出自粛等の影響により一時的に増えましたが、2021年度以降は市民生活がコロナ禍前に戻りつつあること等の複合的な要因により家庭系ごみ量が減少したことで目標を達成しました。

「焼却処理率」については、焼却量の減少率よりも総ごみ量の減少率の方が大きいため、総ごみ量に対する焼却量の割合が高まり未達成となりました。今後も雑がみの資源化や食品ロス削減、生ごみ減量等をさらに進めて目標達成に努めていきます。

東部クリーンセンターにおける所内電気使用量に対するごみ焼却に伴う発電量の割合を示す「ごみ焼却発電による電気使用量賄率」については、2019年9月に灰溶融炉を廃止したことに加え、2021年3月に完了した延命化工事での高効率機器への更新による所内電気使用量の低減及び排ガス再循環システム導入等による発電量の増加により、目標を達成しました。

主な施策の実施状況

(1) 「もったいないの心」ごみにしない取組の推進

市内で食品ロスの削減に積極的に取り組んでいる店舗を「食品ロスゼロのまち協力店」として登録し、飲食店から排出される食品ロスの削減のほか、ポスターやPOPの掲示にご協力いただくことで、飲食店・利用者双方の食品ロス削減意識の醸成に努めています。

また、公共施設へのマイボトル専用給水スポットの設置や、マイボトルに飲料を有料補充できる店舗を「とことこマイボトルスポット」として登録することにより、市民のマイボトルの持ち歩きを促進し、ペットボトルの削減に取り組んでいます。

[2022年度実績(2023年3月31日現在)]

- ・食品ロスゼロのまち協力店累計登録数：253店舗
- ・公共施設へのマイボトル専用給水スポット累計設置数：31台
- ・とことこマイボトルスポット累計登録数：19店舗

(2) みんなで進める資源化の推進

ごみ減量及び循環型社会形成に向け、3R(Reduce:発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再生利用)啓発として、リサイクルふれあい館では3Rに関するイベント、館内表示、施設見学の受入れ、講習会などを実施しています。また若年層をターゲットとした家庭用ごみ分別アプリ「わけっこっ!」も配信しています。

(3) 環境に配慮した廃棄物処理施設の整備・運営の推進

「自区内処理の原則」に基づき、新たな最終処分場として整備する第2一般廃棄物最終処分場について、周辺環境と調和し、安心・安全な施設となるよう配慮して計画・整備を進めています。

東部クリーンセンターでは、2019年9月の灰溶融炉の廃止に伴い、所内電気使用量が大きく低減しました。また、延命化工事による高効率機器への更新による電気使用量の低減及び排ガス再循環システム導入によるごみ焼却発電の発電量の増加により、所内の電気の使用に伴う二酸化炭素の排出量が減少しました。

[2022年度発電量実績] 約19,523MWh



■「食品ロスゼロのまち協力店」ステッカー



■給水スポット



■ごみ分別アプリ「わけっこっ!」